

満州におけるロータリー運動の展望

佐々木孝三郎

滿洲におけるロータリー運動の展望

佐々木 孝三郎

滿洲におけるロータリークラブは大連が昭和3年、奉天が同4年、ハルピンが同5年、新京が同9年という順序に創立されたのである。当時シナ大陸におけるR.C. は天津、北京、上海、南京、それに、香港（勿論英領だが）と5クラブがあり而も會員の大部分は外人であり、シナ人の會員と謂つても大部分は英米商社に關係する者か或いはアメリカ留学上りの人達が多く日本人の會員というものは上海に少しあるだけで他クラブには絶えて居なかつたのである。而も大正末期から昭和初頭にかけては張作霖の勢威拡大時代とでも言おうか、所謂滿洲の鐵道問題など滿鉄の並行線布設問題などで日本側の関東軍とは事毎にいがみ合っている時で世界的に日本の横暴なるものが漸く論じられて来た時代である。上海、南京等の地方でもシナ側經濟界の發展時代ではありオノ次歐洲大戰後の民族自決風潮に乗って漸く氣息が荒くなって来た時で上海に於ける日本側の紡績工場などは何時も問題ばかり起している時代であつたのでこのロータリーへ行つても集つた外人やシナ人の間では日本の悪口ばかりであるというのが事實であつたらしい。

(2)

一方滿洲では滿鉄が山本繁太郎總裁を迎え政友会の積極政策が打ち出されて来た時代で此時松岡洋右が外務省から転じて理事として滿鉄に入り、やがて副總裁となって米配を振う時代に差しかかっていたのである。総領事としてサンフランシスコなどにいた松岡は勿論この日本に対する世界的不評が骨身にこたえていたので一刻も早く日本人の手で滿洲にもR. C. を作らねば不可んということになったらしい。これが彼自身中心となって出来た大連R. C. であった。

大連ロータリークラブ

大連R. C. は上述の通り最初其の中心となり推進力があつたのが松岡であるが最後まで中心となつたのは後にネクスズ(滿鮮)監督をつとめた其瀬謹吾であつた。其瀬は日露戦争の時大学を出て避居省に入り軍に従つて滿洲に渡る折御用船佐渡丸に乗つてこれが玄海雑でロシア軍艦に沈められた所謂佐渡丸生き残り組として大連民間人の第一線に立つた人達のその又中心人物として若い時から崇敬された寡黙濔容の君子人であつた。その外大連民間人としては進利商会の高田友吉や福昌会社の柑生由太郎等(柑生は昭和5年に死去

したので其の後は女婿常三郎が継承した)の如き既に敷衍的存在であった人達もあり日支
画界から重視されそれに着鉄のインテリの要人など常に中心部にいたのでロータリークラ
ブとしても誠に立派なものであった。其外戦後昭和27年に東京R.C.の会長をつとめた
古沢文作が日清製粉の専務として大連に居たが此の人なども大連R.C.にとってはかけ
替いのない人であったのである。彼は当時既に自ら自動車を運転し大連唯一のオーナー
ドライバーとして愛された人でもあった。其の外後に大連商工会議所会頭をつとめ、戦後
これ又日本に帰り昭和29年大分R.C.の会長をつとめた首藤定などもいた。当時大連
クラブの名物男としては浜村善吉がいた。浜村は着鉄系の英字紙、マンチュリア、デリー
ニユースを主宰した人だが極めて磊落な一言居士でこの人の所嫌はめ発言を抑えるのに他
の会員達は常に苦勞するのであった。支那人の会員は天興福(製粉)の総経理であった邵
慎亭外、その人に過ぎず中国銀行や交通銀行などの歴代支店長などであった。

斯くして昭和29年も押しつまったノス日松岡会長、古沢副会長でスタートした大連R.C.
であった。幹事役は英文の関係もあって、浜村老が最初をつとめたのであった。

(チャーターナイトなどの記録は今のところ手許にないので遺憾とする。)

奉天ロータリークラブ

大連の松岡洋右は昭和3年2月6日大連 R. C. 創立第24例会の席上に奉天の佐泉篤介並に天野隼二の二人を招んだ。佐泉は長く上海に居り外務省の後援に依って経営されていたシマソハイマーキュリーという英字新聞を主宰していたのであるが松岡はこれを奉天の漢字紙「盛京時報」に招んでその社長に据えたのであった。盛京時報は北京の順天時報を経営して令名のあった中嶋真雄(長州人)が明治39年に起した新聞でシナ人の啓発には大いに貢献した新聞であった。昭和2年同じく長州人である松岡が中嶋翁を説いて隠退せしめ佐泉を招いたのであった。また天野は当時奉天三井物産出張所長で上海東亜同文書院出身の支那通で佐泉とは大いに意気の合う仲であった。松岡はこの二人に奉天にも早くロータリーを作るよう要請したのであった。二人は直ちに奉天に帰り専ら滿鉄関係の人達や其他を集め4年2月23日初めて設立準備会を発足させたのである。大連の副会長古沢文作が来て説明に当った。この会合には当時教育専門学校教授であった例の蓮の大賀一郎博士や戦後日本に引揚げた留米 R. C. の会長をやった武田胤雄等があった。武田はアメリカで勉強した人で奉天滿鉄の外人係主任をしていた最も若い方の人であった。この席

上愈々奉天ロータリーの設立に踏み切り翌3月9日奉天ヤマトホテルに創立総会を開く筈取りになり、大連からは再び古沢文作副会長が米山カフの区ガヴァナーの代理として出席司会をしたのであった。

斯くして発足した奉天ロータリークラブチーマーターメンバーは2ノ名で主なる人は大体滿鉄関係の人達であるが南滿州医学堂（後の滿州国医科大学）の教授連や正金銀行の支社長、赤十字病院の院長と言ったような人達である。

会の構成は会長に佐泉篤介、副会長に太田雅夫（当時の滿鉄地方事務長）会場監督に天野悌二、セクリタリーに武田胤雄のメンバーであった。

4月15日に米山カフアナーより電報があり4月11日附を以てカフ116番として国際ロータリーに加盟が正式に承認された旨通知があったのである。3月16日にカフ116番の例会を開いている。土曜日である。当分月1回のブルテンを発行することとなり *Mukden Rotarian* と命名した。ムクデンとは蒙と蒙古語で奉天のことを言い、英語は蒙古語の発音其のまま取って国際的にムクデンで通っていたのである。

昭和4年10月5日に愈々チーマーターナイトをやることになった。日本の代表的 R. C.

からは何れも数名の会員が出席したことを非常な誇りとしたのである。即ち東京からはガヴァナー代理として北嶋亘氏が夫人、令嬢を伴って出席し、その他フレザー氏や依田耕一、青木五五郎夫妻、渡瀬三郎氏等があった。其他

横浜 渡辺利二郎夫妻

名古屋 浅野甚七

京都 小嶋勇之助、松尾嘉七、等都合ク名

大阪 長谷川正五郎、小林林之助

神戸 田崎懐治、平松金次等々名

京城 松岡正男、金尚会、

大連 古沢文作外々名

米山ガヴァナーを代表した北嶋氏は前夜湯山崩子温泉で腹痛を起し欠席、フレザー氏が代理役をつとめたのである。

伝達式は新築成ったばかりのヤマトホテルに於て極めて盛大裡に挙行されたが席上代理としてフレザー氏が興味ある挨拶をされたからここに之を抄出することにした。

今夏のダラス大会には私はガヴァナー米山と共に出席し、私は東京及び名古屋を代表したのであります。ガヴァナー米山は大会之日目に漸くお着になりましたが大会議長サットン氏は一万の会員をほったらかして彼を駅頭を迎えた為には大会は10分以上も遅れて開会されたのであります。プレジデントサットンは壇上に列が50乃至60のゲストリストがガヴァナーをアルファベット順に一々紹介したのであります。H、I、J、と来ても中々ジヤパンを呼ばずに素通りにして行きましたので会衆は承知せずジヤパンは何うした、忘れたのかと異口同音に叫びましたがサットン氏は平気で議事を進めとて曰く「私は最善のものを最後に残しました。只今日本のガヴァナー米山を紹介致します」というや一万の会衆一斉に叫んで賞揚し歡呼しました。ガヴァナー米山は流暢なる英語を以て一場の挨拶をなして一同に深き感銘を興えました。特に日本のロータリークラブにとり由緒深きダラスのホストクラブに対し日本のロータリーを代表して甘の丸の国旗を送られました。之は実に意義深きことであります。日本にロータリーを持って帰った人は、実にこのダラスクラブの会員であった一日本人であったということでもあります。云々

次いで東京の依田耕一氏や大阪の長谷川氏、神戸の田崎氏、名古屋の浅野氏、京都の小

嶋氏等が順々に祝詞を述べ最後に大連の古沢氏が整妙な挨拶をされて一場を笑わしたりしたのである。

大会 2 日目の 6 日はイクスカーションで撫順炭坑にゆき露天堀などを見学し大いに満足したということであった。

大会席上佐原会長はチマーターメンバーの中に外人も入会させようとしたのだがそこまでまだ手が届かなかったと語っているが果して其後外人会員がドンドン増加したのであった。

奉天 R. C. にとりて画期的出来事は昭和 5 年 9 月 20 日に米山ガヴァナーを迎えたことであった。ガヴァナーは東京クラブの創立 10 周年の式典があるのにも不拘藩鮮ロータリーの視察に踏み切り奉天訪問の日は恰も東京のホームクラブでの祝典に当る日であった。奉天では臨時例会を召集してガヴァナーを迎えたのである。稲葉会長（奉天医科大学々長）は極めて町重なる歓迎の辞を述べガヴァナーは又ロータリーの国際的展望を述べ今後カクロ匹の進むべき道を説くのであった。

奉天 R. C. のシヨツキングは昭和 6 年 9 月 18 日未明に起った柳條溝事件で、何

しる奉天のお隣元で起ったことであるから其の狼狽は推して知るべきである。併し、これは独り奉天R. C. だけの向題でなかつたことは周知の通りである。

奉天R. C. 初代会長佐泉篤介の逝去は昭和7年9月17日であるが彼の葬儀には奉天の外人數十名が参列し日本人側としては例のないことなので耳目をそばだたしたことであつた。享年58の若さであつた。

佐泉は冒頭にも述べた如く上海から奉天に来た人ではあるが元々慶應出の駿足で時事新報社より上海駐在を命ぜられて海外に出た人ではあるが日露戦争の折バルチック艦隊が果してどこを通過するかが日本海軍の一大關心事であつたが対馬海峡を通過するとのカー電を日本に送つたことは有名なことである。佐泉の訃が日本に伝はるや9月20日葬儀当日に裏くも軍令部長の宮より弔電を受け又若多年の功を賞で従六位を贈られたのである。因に同君は昭和34年戦役の功に依り勲5等に叙せられてあつたのである。

昭和6年9月18日の柳條溝爆破事件は奉天R. C. にとつて最も大なるショッキングであつた。世界は挙げて非難攻撃、関東軍は益々意気健昂、とあるから奉天のロータリアンには中に立つて非常な困惑を來たした。外人の会員達は冷やかな眼で集るといふことにな

る。国際ロータリーのパスコール会長は是亦た非常に困惑して井坂孝がヴァナー宛頻々として打電、事の内容、将来への見通などを向合せて来る仕末、遂にヤッコ区でもえに対する意見を何とかまとめる必要を生じ曲りなりにも「日支争変に対する態度に関する意見書なるものを提出することになった仕末は日本の先輩ロータリアン達の今猶ほ牢记するところだから茲には省略する。

最後に当時の奉天 R. C. 時代の人で今猶健在する人達を挙げれば先づ京都には久野寧先生がある。既にタコの坂は越された筈であるが今なお矍鑠として学士会などの会合にも出席されるということである。英独西国語に堪能なる先生は天性の社交性と相俟って奉天 R. C. 内外の会員達から親まれた人である。筆者は先生が会長時代に会報の担当などしたので何かと非常な御指導を頂いたことを感謝しているのである。銀座クラブにいる日塔次郎君は昭和ノコ年度の会長であつた。筆者はこの年京城で催されたヤッコ区オノコ回年次大会に出席して金剛山などへも共に登った当時のことを回想しては今昔の感に堪えないものがあるのである。当時奉天クラブに居た宮田自転車の大場惣太郎君(白水郎)について俳句をはじめえを火燗俳句会と称した時代からの仲間である。東京南クラブの中村

米平パストがヴァナーもそのノ人、奉天からイキナリ大阪の三井物産支店長に転出された時は一同驚いたものであった。当時の大阪支店長は上海、ロンドン支店長などと共に重役への最短距離と言はれて居ったからである。奉天で忘れるべからざる人は今久留米クラブに居る武田胤雄君と横浜クラブに居る伊藤多度作君である。武田君は昭和4年奉天ロータリー発足当時のセクリタリーとして活躍された人、また伊藤君は満洲医科大学予科の助教であったこの人に無理にロータリーに来て貰って一切のお世話を頼った人であった。当時日本内地の色々な会合に根気よく出て貰ったので日本では奉天の伊藤君として最も顔の知られたロータリアンであった。京城の大会にも吾々は一緒に出席したのであった。仙台の佐々木孝三郎は当時奉天の古い在留氏として奉天銀行重役の傍ら奉天新聞副社長、奉天商工会議所議員などの職にあつたので政界上の連絡係として引っ張り込まれたのである。昭和8年7月のことである。会議所議員と言えば日塔君はその副会頭の一人でもあった。

哈爾濱ロータリークラブ

ハルピンのロータリークラブは昭和5年4月に創立され、5月6日に第一回の例会を開催

いている。スポンサークラブ、とまでは行かないが創立を輔けたものは奉天の佐泉篤介と天野悌二だから大連の松岡洋石の命に依ったことは容易に察知されるるところである。地元側では国際運輸の剛崎^{こわさき}虎雄と瀋鉄囑託の軍司義男、それに会議所会頭をしている加藤明の主人であった。この主人は何と言ってもハルピンの立役者で何事を起すにもこの主人の力を惜りねばならない土地柄であったからである。軍司は例の千嶼探険の軍司大尉の弟で剛崎と加藤は東京外語のロシア語出身で早くからハルピンにいる人達であった。チヤーターメンバーは22人でそのうちロシア人は2人いたのである。

チヤーターナイトは同年8月30日の日曜日に哈爾濱文化協会会館に於て盛大に行われたのである。神戸からは辻広、大連から高崎弓彦、貝瀬謹吾、奉天からは佐泉篤介、小川勇、船葉遠好等々の夫人同伴であった。米山がヴァナー代理として来る筈であった東京の能見愛太郎氏は汽車の都合か何かで乗られなくなったことを一同は大いに落胆したことであった。それに前日到着していた奉天の久保田晴光が加った。乗賓一同は先づ北藩ホテルに集り小憩の後自動車をつらねて松花江の清遠へと出かけたのであった。外輪汽船に乗って松花江大鉄橋の下を漕ったり伝家甸埠頭を眺めたりすることは一同にとりて珍しいこ

とで大いにハシマイダ様子である。夕刻チマターナイト会場である文化協会会館に集ったがハルピン一流の華かなものでタキシード姿に威儀正した面々であった。

・午後正午時半行進曲「ロータリー・インターナショナル」は華かにオーケストラボックスより起り、とある。樂終るや剛崎会長起ちて開会の辞を述べ先づ遠来のロータリーアン各位に謝意を表し哈爾濱ロータリークラブ創立の經過を詳述したのち特に奉天の佐泉、天野両氏に厚き謝辞を送ったのであった。それより来賓の祝辞があり先づ内地より唯一の出席者である神戸の辻広氏は内地全クラブを代表して祝辞を述べ次いで大連の貝瀬謹吾氏はロータリーの誕生25周年記念の歳に生れた当ハルピンクラブは其の前途誠に多幸なるものあるべしと語り最後に佐泉氏の祝辞を以って終ったのである。

晩餐会は豪華なロシア料理とロシア美姪の妖姿に満足し、ノ時盛會裡に散会したということである。翌夕日ノ日はイクスカーションで郊外にある沖、横川等志士の碑に雄魂を慰めたりした。

斯くして、発足したハルピンロータリークラブではあったが由來ハルピンというところは複雑な構成を持っていたのでその運営は中々骨の折れたものであった。当時の邦人は漸

く5000人そこそこであるから何事でもまとまり易い所ではあったが其頃より北滿地方も漸く騒然となり昭和九年三月には遂に「皇軍」の入城となるのであった。日本人の一漢組も日に日にその数を増し洗練された旧来の在留邦人も肩身のせまい思いをせねばならなくなつてゆく。シナ人はシナ人で歳毎に増加し下層白系露人などは益々困窮を極め流石乱世に動じない富裕なロシア人達も昔日の夢をむさぼる訳には行かなくなつて来た。東歐式色彩の濃い落ち付いたスラブ人の街ハルピンも今や何時とはなしに暗くなつてゆくのであった。この向に処したハルピンロータリークラブは週報一つ出すにも邦文版「哈爾濱ロータリアン」があり更に露文版があり英文版 *Harbin Rotarian* さえあったのである。熱意があつたとも言える。国際都市のロータリアンだけあつてここにはエスペラントに傾倒する人達がある。予ありロータリーの文献すべてをエスペラントにすべきであると熱心に唱道するのであった。現に英国リバプールクラブと哈爾濱クラブとではエスペラント文の往復があつたのである。又斯んなこともあつた。新興國チエツコスロヴァキアのギリクラブから遙々新年の賀状を寄せられた。クリーム色の二枚折カードの中には彼等の母國語たるチエツク語で年賀の詞が印刷されて居た。サアこれに対して当方は何語を選ぶ

べきかで論議が湧いた結果日本語の賀状は送らなかつた。何故なら国際都市ハルピンのクラブの答賀である、日英露人を会員に持つクラブの賀状だからである。用いられたのは謂うまでもなくアスペラント!!ほのぼのとした話ではある。

なおチーターメンバーの箱崎文彌君(朝鮮銀行支店長)は戦後郷里福島市に引揚げ現に福島相互銀行社長として福島R.C.の会員である。

新京ロータリークラブ

新京ロータリークラブは昭和9年11月20日を以て事実上の開会となり国際ロータリー認承番号はカヨフ々ス番である。スポンサークラブは奉天。

当時滿洲に於てこのクラブほど設立に苦勞を重ねたところもなく約14年に亘る努力精進の結果まとめ上げたとも謂えるのである。ここに少しく当時の経緯に就いて説明をなし置く必要がある。時のガヴナー村田省藏は謂うまでもなく大阪商船の社長であるが彼は何とかしてこの新生国家の首都新京にクラブを新設せむものと焦慮し遠大なる計画を樹てたものと見ゆる。先づ大連の大阪商船支店長渡辺重吉と相談しその部下の最も俊彦と詔わ

れた青年社員村井弘光をして奉天に商船事務所を新設せしめその初代事務所長として村井を指命した。村井は奉天に乗るや先づロータリーの会員になることを希望し或る人の紹介を以て佐々木孝三郎に兎角の教導を求めたのである。佐々木も村井の人物と識見に惚れ込み有力者の予解も得てロータリアンとすることになった。村井は素と京都大学の出身で申分のない立派な青年紳士であった。彼は極めて熱心にロータリーを勉強したが幾何もなく新京事務所開設の命を受け新京に行ったのである。一介の青年社員村井は八面六臂の努力を重ねてその存在を認めしめ、茲に愈々ロータリー新設の運動を起したのである。昭和9年8月10日に発会準備の集りを見、各方面説得の上直ちに同月20日更めて盛大なる発会式挙行ということにまで漕ぎ付けたのである。実に驚くべき努力である。由來新京は役人と隼人との新興都市ではあり而も役人の枢要部門は表向き全部所謂藩人であったのでこの発会式に官民各方面の要人を網羅し得たことは尽し村井の手腕を以てして初めて成し得るところであった。当日の出席者24名、来賓としてハルピン、大連のロータリアンは勿論奉天クラブよりは会長奥山賢（滿洲医科大学予科部長）久野寧博士、並びに久保田晴光教授が出席し東京よりはフレザーが来会した。周到なる村井はこれを契期として暫くはし

ばれば懇談会を継続開催してロータリーの認識を深め且つ入会勧誘に力を注ぐことが賢明であると爾後ノノ月3日までに実にノノ回の集会を重ねたのであった。而してノノ月27日より新京假ロータリーの例会に切り替え翌昭和ノノ年9月22日朝吹カヴアナーを迎えてのチャーターナイトとなるのである。其間ノノ年2月22日に着洲国視察と称して来京した村田カヴアナー歓迎家族会を催したり同年4月25日には前国際ロータリー会長トウマス・サットンの歓迎家族会があり、又6月15日には懇親ゴルフ競技会さえ催しているのであった。手を尽して充分ロータリー精神を植付けたのであった。余談になるが村井はこの努力に依って村田社長の深く信頼するところとなり翌年には大連支店長となりやがて後年村田社長が軍の懇請により南方軍顧問、司政長官としてフィリッピンに赴くに当り其の帷幄に参画して同行し、遂に彼地に於て客死することになるのである。新京ロータリーを語るにあたり忘れ難きは村井弘光である。

7月1日現在の会員数がチャーターメンバーと見るべきであるが都合33名であった。会長は栗原重康（正金支店長）副会長石崎広治郎（石崎洋行主）名誉幹事は村井弘光、草間秀雄（採金会社副理事長）の2人であった。文教部大臣の阪振鐸氏も理事の1人であっ

た。

9月22日(日)に用かれたチャーターナイトは朝吹ガヴァナーと村田前ガヴァナーを
迎えて豪華絢爛とでも言うべきものであった。午前9時会場である新京ヤマトホテルに登
録開始。9時30分より一同自動車にて新京神社、忠霊塔参拝後市内及南嶺等を視察し正
午には韓新京特別市長招待の午餐会に臨み午後には更に既文教部大臣招待の茶会と言った
歓待振りであった。

午後6時からの祝賀披露式は奉天、大連、ハルピン各クラブからの来会者も多く是亦多
彩なものであった。朝吹ガヴァナーは例の洒脱、軽妙なスピーチは一同を魅了して己まな
いものがあった。劈頭に用ロー番、私は新京のロータリークラブは非常に好きであります。
なぜなら其さま方が何れも揃ってキレイだからであります。と言った調子で滔々40分に
亘るスピーチは事務的な話などは一つもなく飽くことを知らしめなかつたのである。来賓
祝辞やスポンサークラブ代表の挨拶など型の如くあつて9時半終了。9時半より祝賀
晩餐会となり10時半歓をつくらせて散会したのであった。翌23日はイクスカーションで
吉杯に清遊を試みたのである。

最後に附記したいことはこのチャーターナイト開催の案内状に記載された「備考」である。如何に用意周到であったかが窺えるからである。

1. 登録料 会員金8円、御家族(御ノ人に付金5円)

2. 服装 平服に類します。

3. 当地の気候其他 過去ノ年の記録に依れば9日又9日の当地平均温度は摂氏約15度(華氏約60度)にて概して晴天であります

4. 来会者に対し乗船賃割引 本チャーターナイト御来会のため大阪商船会社に於ては会員並に御家族に対し御所屬クラブ発行証明書引換えに乗船賃之割引取計られる筈であります。

などであり、大阪商船のサービスも忘れないのであった。

以上が大體滿洲に於けるロータリー活動の経過であるが時局の進展と共に日滿ロータリー連合会の結成、更には昭和15年日本ロータリーの解散に至る経緯を語るは別に其の人があるから茲では割愛することとした。